



## 人口対歯科医師数に関する一私見 (その2)

### ▶その現状分析と将来予測◀

安田 修 (守山)、高島治巳 (瑞穂区)

田川 清 (東区)、坂井 剛 (昭和区)

#### はじめに

前回の報告(愛歯月報2月号)の中で我々は、人口と歯科医師数の真の調和を求めて、名古屋市の国保患者の受診状況を詳細に分析してみた。その結果、患者の流れを加味した人口数に基づいて、歯科医師数を考える方が、より実態に迫れる事がわかった。又、考察の過程で、適正歯科医師数という物指しを使うことで、歯科医師過剰の様相がより鮮明になることもわかった。

今回の調査では、過去5年間の手元の資料を分析し、さらに将来に向けての対応策を探るべく、5~10年後の予測をしてみた。分析の手段として適正歯科医師数という物指しを使い、結果は全て別記の如くグラフとして表現した。特に考察として、歯科大学入学定員の適正な数値を把握することに力を注いだ。これは有効な対策を立てるために、ぜひとも必要な事だと考えたからである。

#### ◎グラフの説明と考察

##### 1. グラフ1. について。

このグラフは全国の歯科医師数を、過去5年間(昭和50~55年)の実数から、今後の10年間に亘る(昭和56~65年)推移を予測したものである。次にグラフを読む為の説明を箇条書きにしておく、

- (1) 左側の縦軸は1歯科医師当りの人口を目盛り、
- (2) 右側の縦軸は全国の歯科医師数を目盛った。

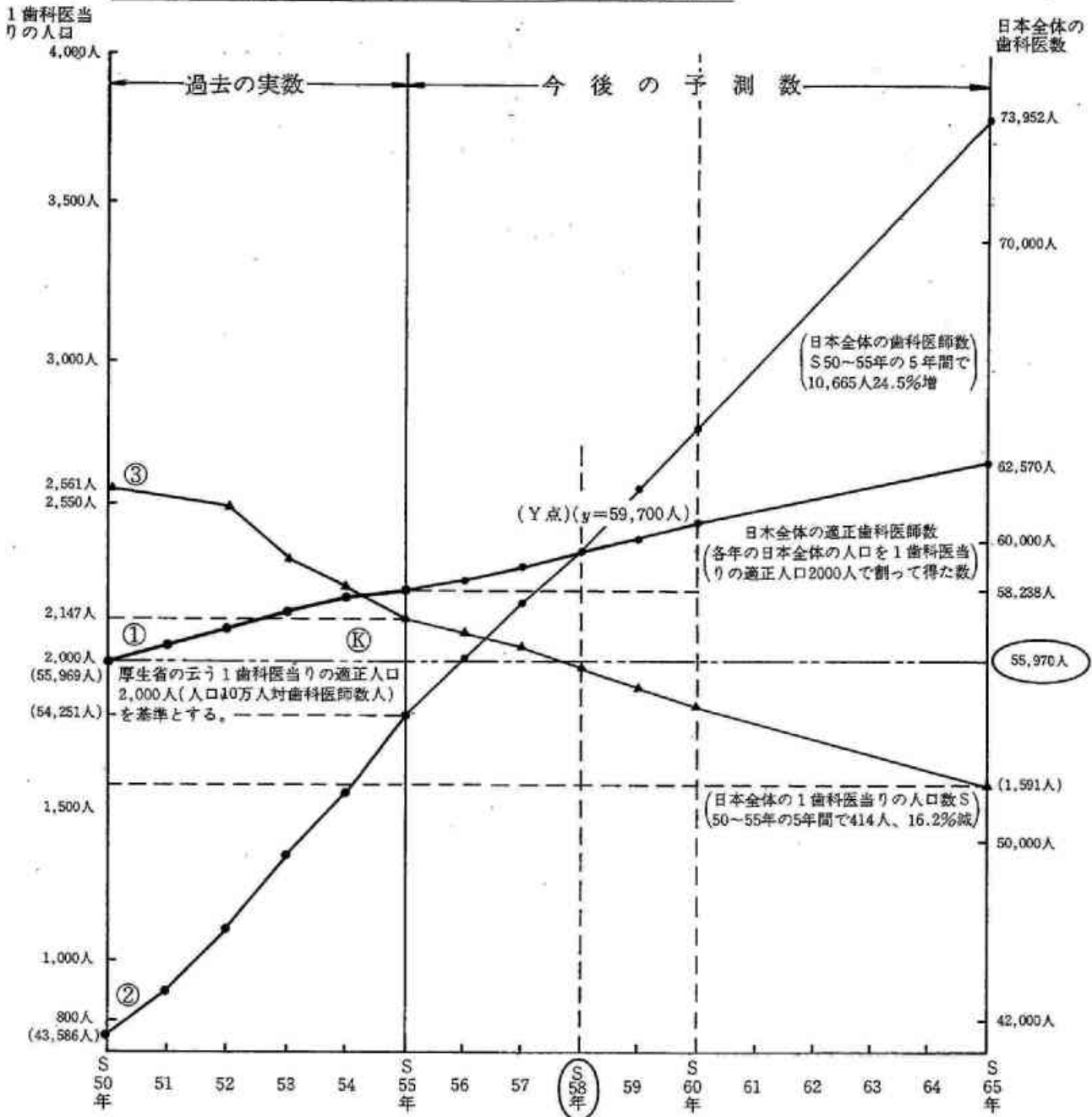
- (3) Ⓚの点線は、厚生省の云う、1歯科医師当りの適正人口2,000人を示す点と、昭和50年10月1日の日本の総人口111,939,643人を2,000人で除して得た同時点での適正歯科医師数55,970人を示す点、とを結んでおり、両者の関連を示す基準線となっている。
- (4) ①の線は各年ごとの日本の総人口を2,000人で除して得た日本全体の適正歯科医師数の推移を示している。
- (5) ②の線は日本全体の歯科医師実数の推移を示している。
- (6) ③の線は日本全体の1歯科医師当りの人口の推移を示している。
- (7) Y点は①と②の線が交わる点で、これは歯科医師実数が、想定された適正歯科医師数を上廻る時点を示している。

注、ここで云う適正歯科医師数とは、

厚生省が国民の歯科医療を考える上で、一応の目安として、人口2,000人に対して1人の歯科医師が必要である、と云っている。それを根拠に、各年ごとの総人口を2,000人で除して得られた数値を適正歯科医師数と称して、資料の分析に利用したものである。無論、我々の側から見た真の適正歯科医師数ではないし、今後、時勢に応じその意味するところは変化するものである。

グラフ1 ▼

日本全体の歯科医師数と1歯科医師当りの人口の推移と適正歯科医師数の推移。S 55～55年の実数とS 56～65年の予測数



グラフ1でみると、全国の歯科医師数は昭和58年に適正な数を超過し、その後も急激に増加して、昭和65年には73,952人と予測される。これは同年に於る適正歯科医師数62,570人より約11,000人も過剰になることを示している。一方、1歯科医師当りの人口も昭和58年に適正人口2,000人を割り

昭和65年には1,591人と落込んで、1,500人時代への突入を示している。

〔考察〕

この歯科医師の急増という環境の変化は、我々に有形無形の圧力となって覆いかぶさってきている。逆にいえば、この歯科医師の急増を適正な範

圏内に抑えることができれば、我々の悩みは大方解消されるのである。こうした観点に立ってこのデータを考察してみる。

・まず問題を次の2つに絞って考えてみる。

(1) 歯科医師不足が解消された今日、その唯一の供給源である歯科大学が今後も毎年 3,680 余人もの卒業生を出し続けてよいのか？

(2) 仮に卒業生の数を減らせるとしたら、年に何人の卒業生が適正なのか？

(1)についてまず考えてみる。

頁数の関係で細かい資料は除くが、現状は次の如くである。昭和55年時点で全国に29校の歯科大学及び歯学部がある。その入学定員数は計 3,320 人であるが実数はその1.5%増しの3,362人である。さらに昭和59年以降は毎年 3,680 人の卒業生が見込まれている。一方全国で必要とされる歯科医師数は厚生省の云う1歯科医師当りの人口 2,000 人を正しいものとすれば、グラフ1、で①のラインに示される適正歯科医師数そのものということになる。従って、昭和58年以降の①のラインを越えて②のラインで示される歯科医師の実数は過剰供給ということになるので、当然(1)の問題に対する答えは、「否」である。

(2)の問題について次に考えてみる。

この問題の答えとしては具体的に適正な卒業生の数を算出して示す必要がある。そこで次の様に考えてみた。グラフ1、に示されている歯科医師数は全て自然離退職者を差し引いた純増加数であるから、適正な歯科医師の供給数となると、適正な歯科医師の純増加数に自然離退職者数を加えたものということになり、これが即、適正な歯科大学の卒業生数ということになる。ここでこの答を出すのに必要な要項が判ったので、考えやすくするために次の如く記号化してみた。

◎略記号

・適正な歯科大学卒業生の数、……………X

・予測される歯科医師数と適正歯科医師数が一致する点、……………Y

その時の歯科医師数、……………y

・総人口の自然増に見合った

適正歯科医師数の純増加数、……………A

” 純増加率、……………a

・歯科医師の自然離退職者数、……………B

” 自然離退職者率、……………b

以上の要素を数式化すると次の様になる。

$$X = y \times (a + b) \text{ ……………(イ)}$$

この式に実際の数字を当ててみると、

・Y点はグラフ1、でみるように昭和58年でありその時の歯科医師数 (= 適正歯科医師数 = y) は約59,700人である。

・適正歯科医師数の純増加数Aはこのグラフによると昭和55～65年の10年間で4,332人で、年平均約433.2人となり、率にすると(0.74% = a)となる。(参考までにこの率は同じ10年間の推定人口増加率の0.72%に見合う数字である。)

・歯科医師の自然離退職者数Bは県歯調査室の資料によると昭和58年の推定数828人、その率は1.35%としてあり、昭和51～60年まで同率で推移するものと推定している。従ってこの数値を採り(1.35% = b)とする。(イ)の式にこの数字を当てはめてみると。

$$X = 59,700 \text{人} \times (0.74\% + 1.35\%) \approx 1,248 \text{人}$$

となり、これが適正な年間歯科大学卒業生数となる。この数は残念ながら昭和56年現在、全国29歯科大学の入学定数 3,320 人の僅か37.6%であるこの先は推測による数の遊びと受けとっていただいて結構であるが考えるだけは真面目に考えてみることにする。

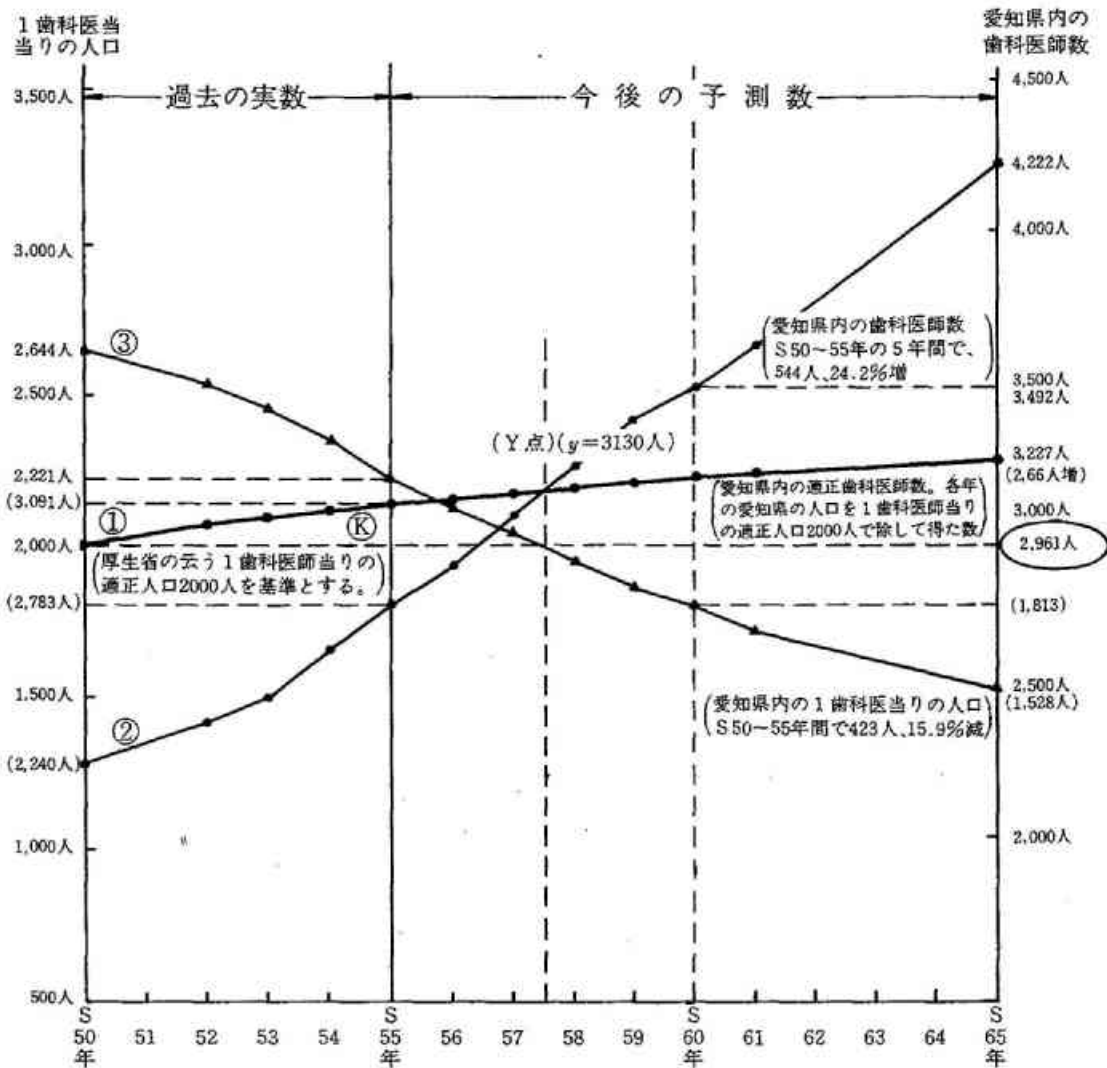
現在、国立大学11校の歯学部入学定員が 800 名であるがその37.6%の301名を定員とすると、1校当り27名となる。一方私立歯科大学18校(公立1校を含む)の入学定員2,520名の37.6%は948名となり1校当り53名の定員にすればよい勘定となる。現在の29大学が全て今後も存続するという前提に立てばこういうことになる。果してこれは本当に不可能な数字であろうか？ 国立大学の定員減少分491人分の補助金を私立歯科大に廻せば、その分私大は……………???

数の遊びはこれぐらいにして、次に移る。

2、グラフ2、について、

グラフ2 ▼

愛知県内の歯科医師数と1・歯科医師当りの人口の推移と適正  
 歯科医師数の推移、S 50～55年の実数と S 56～65年の予測数



グラフ2、は愛知県についてグラフ1、と同様に処理したものである。これによると全国レベルよりも少し早く昭和57年の中頃には愛知県の歯科医師数は適正ラインを突破して10年後の昭和65年には995人も過剰となっている。

〔考察〕

ここでも我々の知りたい事は同じであり、愛知県における適正な歯科医師の供給数をグラフ1、の時と同じように求めてみることにする。

・Y点は昭和57年の中頃であり、その時の県内の歯科医師数(=適正歯科医師数) y は約 3,130人。

・適正歯科医師数の純増加数Aはこのグラフでは昭和55～65年の10年間に 136人で年平均13.6人=Aとなりこれは率にすると  $(0.4\% = a)$  となる。

・歯科医師数の自然離退職者率を全国と同じように  $(1.35\% = b)$  とすると

$$X = 3,130人 \times (0.44\% + 1.35\%) \div 56人$$

となり。これが県内の適正な歯科医師数の年平均供給数となる。ところが最近5年間の県内の歯科医師純増加数は年平均136人であり、愛知学院大学歯学部だけで年平均 200名の卒業生がある事を考えると、このままではどうにもならなくなる

事は明白である。しかも今年入学する学生が卒業するのは昭和61年であり、どうあがいてみてもそれまでの歯科医師の増加は止めようがない。昭和61年では、時すでに遅し、と云うことになる。しかしこのまま放置しておけば、我々も歯科大も共倒れ必至である。今後の歯科界が節度ある発展を持続していく為には、お互いどうすればよいかを真剣に話し合う時ではないだろうか。

### 3. グラフ3、について

名古屋市については、会員数と同様に処理したものである。名古屋市の場合、県レベルよりも、1年半も早く昭和56年には、1会員当りの適正人口2,000人を割り込み、このまま推移すれば僅か5年後の昭和60年には、会員数1,269人、1会員当りの人口1,846人となる。この事は国や県レベルよりもより厳しい対応をせまられていると云える。

### 4. グラフ4、5、6、について。

これらのグラフはそれぞれに特徴のある3つの地区について同様の処理をして得たものである。グラフ4、は千種区の例である。この地区はすでに昭和50年以前に適正会員数を越え、1会員当り

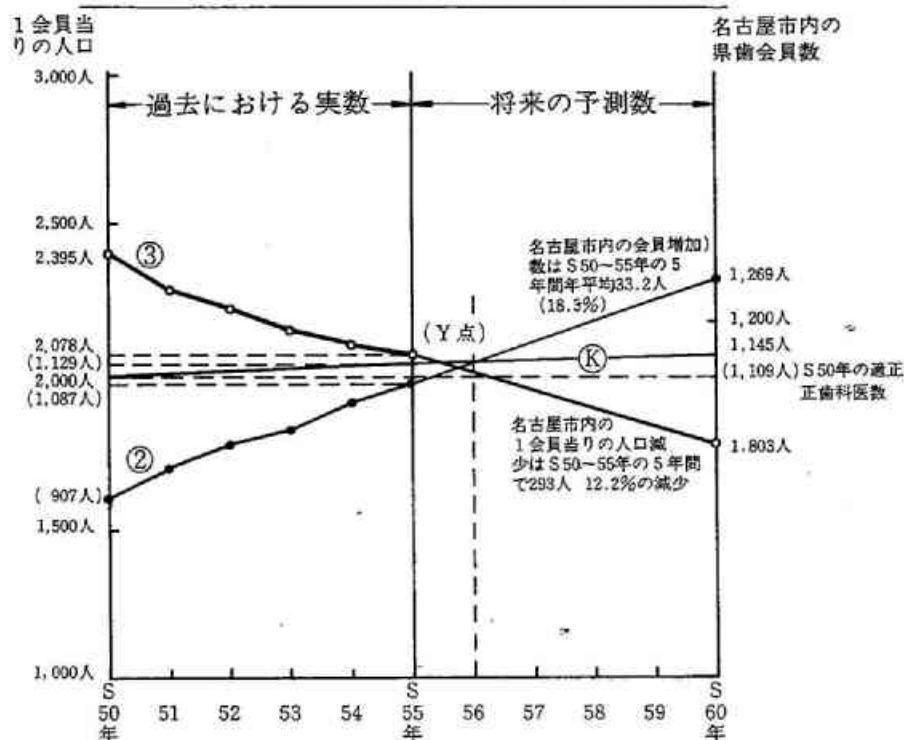
の人口も昭和55年で1,460人と県内随一の厳しい環境におかれている。しかも人口減少地区であり、適正会員数も昭和50年の84人から昭和60年には80人と減少し、その時点での1会員当りの人口は僅か1,091人と予想される。又、このグラフでは会員数を採っているが、実際には愛知学院大学歯学部 の病院が地区の真中にある為、予想以上に厳しい環境となる。ここでは他のどの地区よりも早急な対策をせまられていると考えられる。

グラフ5、は天白区の例である。ここは人口増加地区であるが昼間人口指数は87.5であり、5年後の適正会員数が47人で本当に適正であるかどうかは現時点では疑問がある。又、この様な一見余裕のある地区でも今の様な歯科医師の増加が続けば、昭和57年中には1歯科医師当りの人口は、2,000人を割り昭和60年には1,370人という厳しい数値が予測される。

グラフ6、は瑞穂区の例である。この地区は市内でもめずらしくバランスのとれた状態にある。今のラインを維持していけば今後も大きな変動はないものと思われる。

グラフ3 ▼

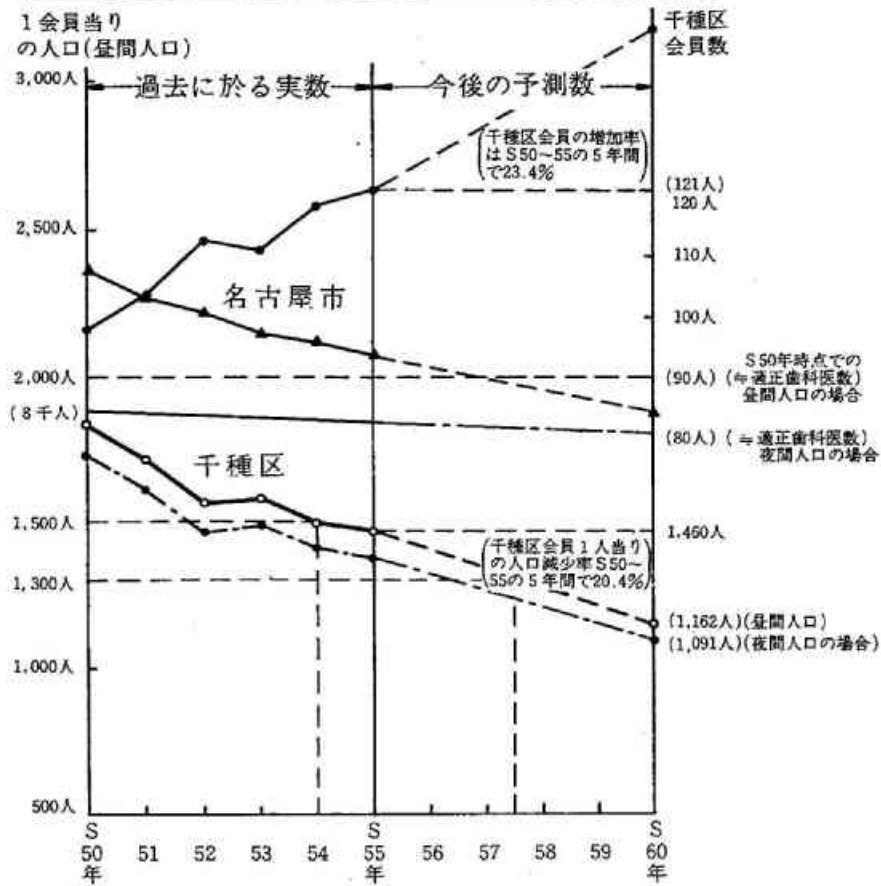
名古屋市内の愛知県歯科医師会々員数と1会員当りの人口の推移 S50~55の実数と S56~60の予測数。





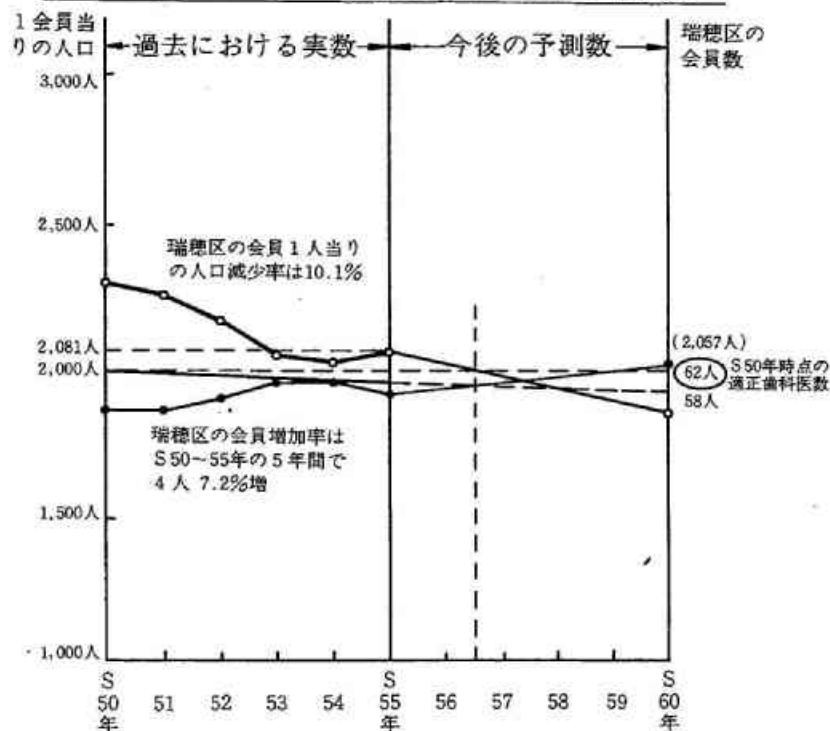
千種区内の歯科医師会会員数と1会員当りの人口の推移 S 50~55の実数と S 56~60の予測数

◀ グラフ 4

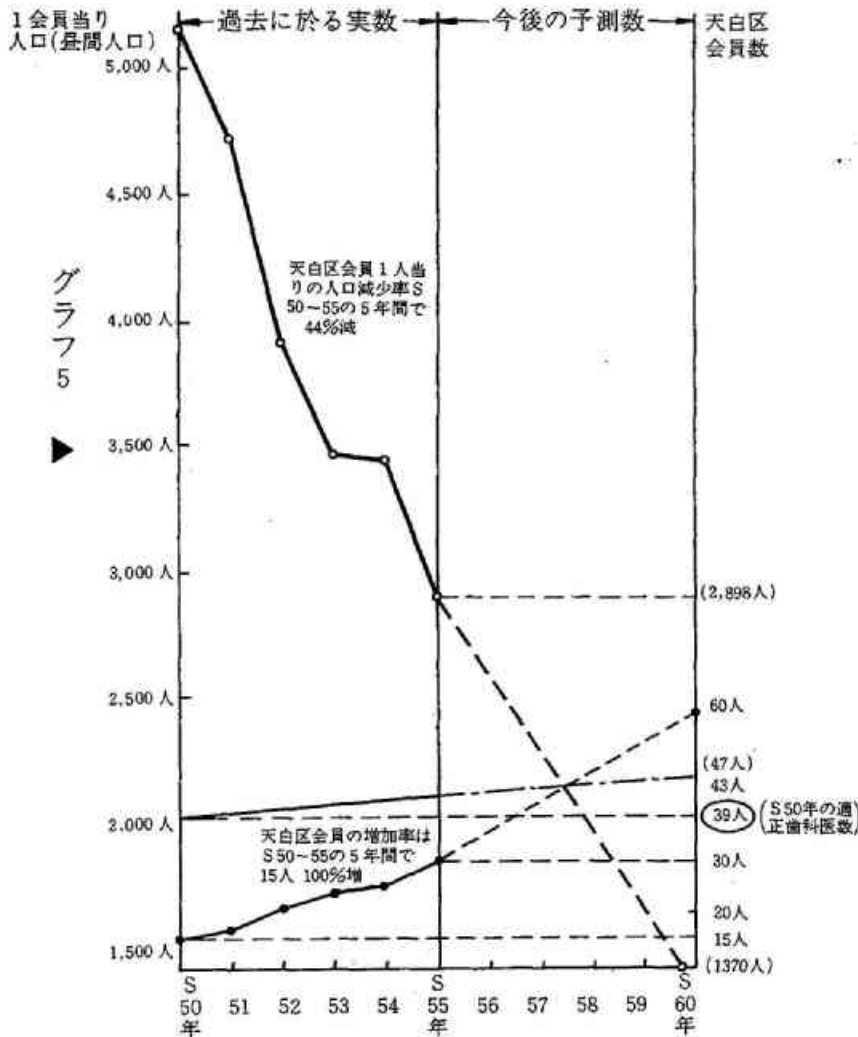


瑞穂区内の歯科医師会会員数と1会員当りの人口の推移 S 50~55の実数と S 56~60の予測数

グラフ 6 ▶



天白区内の歯科医師会会員数と1会員当りの人口の推移 S 50~55の実数と S 56~60の予測数



まとめ

以上のデータから言えることは次の様なものである。

1. 地区ごとの真剣な対策が急がれる。

各地区で多少の差があったとしても、歯科医師の増加は想像以上のスピードで進んでおり、国や県市、地区とも、この2~3年の内に適正歯科医師数を突破することは確実に予測できる。僅か5年後には、各地区とも、相当厳しい対応をせまられる。各々の事情に応じて、確実な対策を立てる必要がある。しかも、より早急に、より厳しく、考える必要がある。

2. 歯科大学の入学定員を減らす必要がある。

今回の調査で具体的な数値が得られた。適正な歯科大学入学定員が、現在の37.6%と出たことの意味は重大である。たとえ3年後の昭和59年までに

定員削減の具体策が実行されたとしても、その効果が現われるのは6年後の昭和65年である。その時すでに、1歯科医師当り人口1,500人の時代は現実のものとなっているのである。6年間のタイムラグを考慮に入れば、一刻の猶予も許されないのである。あと残り僅か3年である。

3. 1歯科医師当りの人口1,500人時代に向って、対策を急いで立てる必要がある。

WHOは最近、1歯科医師当りの人口1,500人が適当である、と発表した。今回の調査では10年後に達成される数値であるが、これをそのまま10年後と読んではいけません。前項で述べた如く、3年後には実現されるものと考えて真剣に対処しなければならない。1歯科医師当りの人口1,500人の時代に、我々を取りまく状況を正確に予測して、不備な点があれば、それに対するあらゆる対応策を講ずることである。

以上、3項目のまとめは、現実の問題への対応姿勢をも含めた、かなり積極的なものとなった。これは今の時代が、消極的な待ちの姿勢が通用しない、非常に厳しい時期に来ていることを、今回のデータが如実に示したからである。さらに具体的な対策が必要であることは当然であるが、その場合、歯科医師会の行う施策は全て10年先の状況に対応できるものであってほしい。

今回、我々が試みた、この拙劣な分析、予測がどの程度通用するものか判らないが、当らずとも遠からずであろうと思っている。諸賢の痛烈な御批判をお願いしたい。

最後に、今回の調査、発表に際して懇切なる御配慮をいただいた諸先輩に心より感謝し、御礼申し上げ、又、県歯調査室の御協力があった事も付記して、感謝の意を表するものである。

つづく、